

# 金沢・町名由来 「橋場町」

今回は、橋場町です。尾張町と同様、前田藩政になってから生まれた町名です。町名には、とくにとりたてるほどのいわれがありません。前に川があったから「前川」、山に杉があったから「杉山」、と言ったように浅野川の橋のたもとに位置していた、たったそれだけの話です。41年2月の住居変更で旧橋場町、材木町6・7丁目、玄蕃町三巡、児玉小路と味噌蔵東丁の一部、味噌蔵町下中丁の一部、玄蕃町2番丁の一部、並木町の一部が新しい橋場町に町名変更されました。亀尾記によりますと、天正のころは単なる街筋にすぎなかったようです。ところどころに神社仏閣があるだけで、一面、広野になっていました。そこへだんだん家が建ち並び、屋根が重なりあうようになってきたので「懸作り」と呼ばれるようになりまし。そして元禄のころになると、衣料関係の店がここに集中し、橋場独特の盛り場をつくりだします。浅野川と橋場町のきずなは昔も今もきれません。犀川とちがい浅野川は比較のおとなしい

川といわれました。明治30年ごろから夏になると浅野川のほとりに軒あんどんをつるしてお客の涼をさそいました。夕やみがようやく濃くなるころ、三味線の音が浅野川のせせらぎに協和します。京都の先斗町に似た主計町のムードは大正から昭和初期にかけて、いっそう浅野川の情緒を盛りたてました。あんどんには風流な川柳、俳句をそえた絵入りのものまで現れる有様で、夕涼み客を相手とするバナナのたたき売りや金魚売りなどの夜店もたつてにぎわいました。朝市もありました。河北郡七塚町の木津からのモモ売りは有名でした。板の上に並べて売るのでなく、ザルの中にモモを入れてきて自分のかぶっていたすげがさにひと山ずつ入れて「モモ買わんせ」とのんびり売っていたそうです。そんな素朴な行き方が橋場商法の背景になっていました。大正から昭和初期にかけては、それでもよかったです。だんだん世の中が世知辛くなると、それは許されなくなりました。

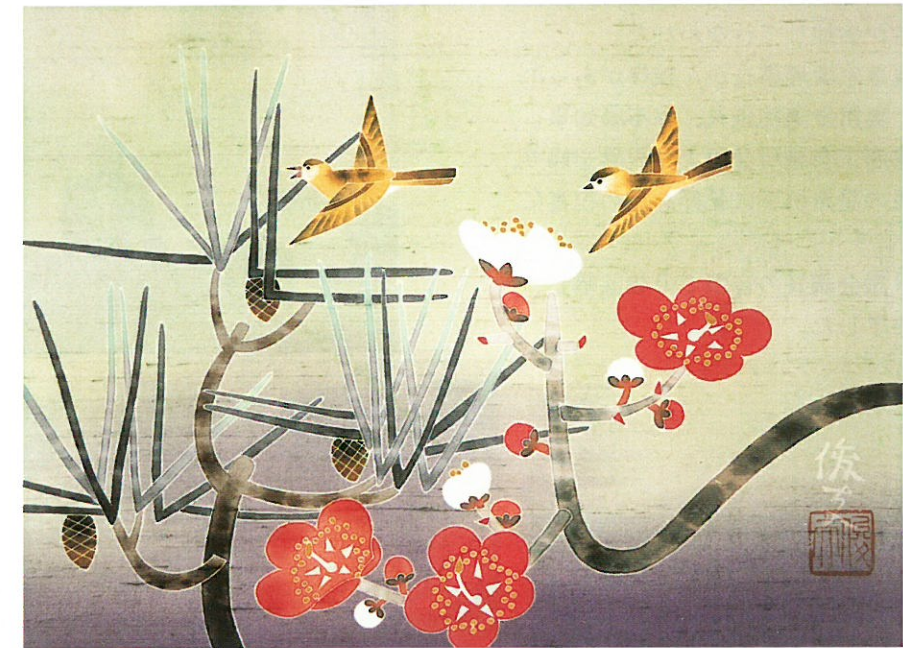
## 事務局だより

- 11月5日 理事会
  - ①時差出勤試行事前調査結果を金沢市が説明
  - ②厚生委員会より、行事結果と予定報告
  - ③建設委員会より、団地内一斉清掃と不燃物有料回収について
- 11月8日 短時間労働者雇用管理改善等事業推進委員会
  - ①後期の運営について
- 11月14日～ 電子メール実験 事前調査現地確認・導入調整
- 11月19日 流通業務施設ヒアリング
- 11月26日 団地内一斉清掃
- 11月28日 不燃物有料回収
  - 〃 30周年委員会 21世紀部会
    - ①組合員意識調査の集計結果について
- 12月2日 財務金融委員会
  - ①運転資金転貸について
  - 〃 30周年特別委員会
    - ニューネットワーク推進部会打合せ
    - ①マルチメディア情報ネットワークの構築について

- 12月3日 理事会
  - ①総務委員会より、新年互礼会について
  - ②財務金融委員会より、運転資金転貸について
  - ③交通安全委員会より、時差出勤試行について
  - ④労務委員会より、合同求人説明会の実施について
  - ⑤広報委員会より、広報誌発行について
  - ⑥厚生委員会より、行事予定について
  - ⑦事務局より、金沢市との災害時における生活必需物資の供給・確保に関する、協力協定を説明
  - ⑧宗廣理事長より、北國銀行問屋町支店建替の為、会館専用駐車場用地との交換の件
- 12月16日 完成30周年記念事業特別委員会
  - ①部会の設置について
- 12月19日 広報委員会
  - ①次号について
- 12月25日 30周年特別委員会
  - ニューネットワーク推進部会打合せ
  - ①光ファイバケーブル構築について
- 12月26日 会館運営委員会
  - ①収支報告について

# 金問屋センターニュース 1997.1 No.67

協同組合 金沢問屋センター 金沢問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/宗廣満夫



加賀友禅作家 百貫華峰作 「ヒワ、梅、松の図」

## 年頭にあたって

(協)金沢問屋センター 理事長 宗廣満夫

皆様、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、10月に政党本位の新しい制度で行われた総選挙により自由民主党が勝利を収め、事実上の単独政権に3年ぶりに返り咲きました。薬害エイズ問題で厚生大臣が謝罪しましたが、病原性大腸菌0-157が全国的に蔓延し、日本を代表する大手企業が海外における不透明な取引により、巨額欠損が相次いで発生するなど、暗いニュースが続きました。

景気回復宣言があったというものの、依然として卸売業を取り巻く経営環境には、非常に厳しいものがあり、残念ながら組合員の中には廃業などにより脱退する商社もでてきており、当組合も団地完成30周年を控え、大きな転換期に差しかかっております。

こうした中、昨春より30周年特別委員会の2つの部会が、将来の在り方を考えたうえで種々の基本計画を策定するため、精力的に活動を行っております。組合員意識調査の実施や、実験的な試みとしての電子メールの活用を足がかりとして、各種情報によるデータベースを構築し、卸売業としての指導力を強力に発揮するために、現在情報通信インフラ整備の必要性が検討されております。

一方、センター周辺を取り巻く環境は、平成12年度には供用開始予定となるセンターと東山・内灘線とを直結する橋と道路の建設に続いて、国道8号線南新保交差点の立体化も、来年度の政府予算編成に調査設計が盛り込まれ、用地交渉が終わり次第着手するようになっており、交通網の整備は着々と進捗しております。

平成14年春には新県庁舎が完成しますし、金沢市とは、災害が発生した時に協力活動を行う協定書の調印や、時差出勤の試行を実施するなど、今までにも増して、行政と協力のうえ、発展・拡大を図っていかねばなりません。

本年は、多方面にわたる外部の方々のご意見も参考にしながら、事業がステップ・アップできるよう「行動」をしてまいりますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

終りに、組合員各位のご繁栄、ご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



# '97 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は、1月6日午後2時より金沢流通会館パルスにおいて、来賓、組合員240名が参加して行なわれた。

国歌斉唱に引き続き宗廣理事長から挨拶があった。次いで、山出市長、奥田衆議院議員、谷本県知事、杳掛参議院議員、宮商工会議所会頭より祝辞を賜り、大塚県商工労働部長の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。

盛宴の中、宇野県議会議員の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



# 年男大いに語る



## 丑年の計は元旦にあり

北陸通信工業株式会社

社長 辰川 伸一

新年おめでとうございます。

昭和24年生まれの丑年で今年48歳になります。丁度、我が人生の中間点も24歳の年男、昭和48年。あの頃は埼玉県の蕨市に住み東京の某電気メーカーに勤務。東京株式ダウ平均が3千円ぐらいでどんどん上がり、リンダ相場=もうどうにも止まらない、と呼ばれていた。JRも国鉄の時代によく順法ストライキでストップ。目前にオイルショックが迫っていたが、今思うと大変に良き時代だったかも。

36歳の年男、昭和60年。会社の創業35周年の年で、役員になって1年が丁度終わったところ。確か近代化研究会の新年会で年男の感想を聞かれ「単なる通過点で特別に何も思う所はナシ」と言った記憶あり。

今年の年男は50歳台を目前に控え、新ためてこの12年間を振り返ってみると、自分自身、髪が白くなったり、酒が弱くなったり、やや体力が落ちてきたりと肉体的に年を重ねた実感はあっても、精神的にも人間的にもそんなに成長してないんじゃないかという気がします。もっと頑張らねばと反省しきりの中で新年を迎えた訳です。

『一日の計は晨にあり 一年の計は元旦にあり』

さて、次の60歳の年男は21世紀の平成21年=2009年。世の中は本当にマルチメディア社会となっていて、コンピューターや情報端末などを駆使した快適で便利な住み良い社会になっているのでしょうか。それ迄に今かかえている諸問題が解決され、本当に平穏な環境になっているのか。はたまた、問屋センターは、自分の会社は、自分自身は……一体どうなっているのか。

タイムマシンがあればすぐにでもそれらを確認することは出来ませんが、それは無理な話。結局、12年の時をかけて旅をして、そして自分自身の眼で見なければならぬ。そこで眼に入るのはこれからの12年間の汗と苦勞が報われた結果なのか、それとも我我ではどうしようもない流れの中での大きな変革の結果なのか。

まだ先の話は別にして、今年一体どうなるのでしょうか。景気は緩やかに回復しているとは言われているが、消費税率のアップを目前に控え、又、株式市場は値を下げ続け、今やトリプル安と言われる中で消費者も企業も冷めた状況にある。又、規制緩和や法改正によって新しいビジネスチャンスが生まれる反面、異業種などからの参入により競争がより激化する業界も。政界も流動的で一波乱も二波乱も。

しかしながら、我々は如何なる時代になっても、どの様な環境下になっても、自分の理想・目標に向かって進んで行かねばなりません。特に今年の干支の牛のように、ゆっくりと遅いながらも一步一步確実に前進を続け、来たる21世紀を迎えたいと思います。その21世紀まで残されたのはあと4年……。

最後にウシにちなんだ故事・ことわざを4つほど。

### 『商いは牛の涎』

商売というものは、牛の涎が細く長く垂れるように地道に気長に辛抱せよ、一時に大もうけしようとするとう失敗するという教え。

### 『鶏口と為るも牛後と為る勿れ』

鶏を小さな集団、牛を大きな集団にたとえて、大きな集団の中で人の尻についているよりも、小さな集団でもいいからその中の長になれという教え。

### 『牛も千里 馬も千里』

上手・下手、速い・遅いの違いはあっても結果は同じであるという事のたとえ。牛がゆっくり歩いても、馬が矢のように走っても千里の距離には違いはなく、結局は同じ所に到着するという事。

### 『角を矯めて牛を殺す』

曲がっている牛の角を直そうとして牛を殺してしまう。ちょっとした欠点を無理に直そうとしてもかえって全体をだめにしてしまうという事で、枝葉末節にかかわって肝心なところを損なってしまうたとえ。

# 平成9年の経済見通し



商工組合中央金庫金沢支店  
支店長 高橋 廣

平成9年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国経済を振り返りますと、平成7年以降の足踏み状態を経て7年後半からは再び回復軌道に戻りました。この背景には、円高是正の動きや、財政・金融面からの景気対策の効果があります。昨年中も景気は回復傾向を持続しましたが、民間需要は依然力強さを欠き、回復のテンポは引き続き緩やかなものに留まりました。こうした中、中小企業の動向は、売上高の伸び悩み、採算性の改善の遅れなどから景況観の回復に足踏みが続きました。

さて、本年の経済情勢を展望しますと、まず海外経済は、総じて底堅い推移が見込めます。米国経済は、やや減速するものの安定的成長が維持され、欧州経済は、緩やかながら回復に転じるものと予想されます。また東アジアでも、全体としては景気の調整過程が一巡し、徐々に持ち直しに向かうものとみられます。

こうした中で、国内経済は、引き続き回復傾向を維持するものの、公的需要の落ち込みや消費税増税などが、景気抑制力として作用するため、実質成長率は低下するものと予想されます。ここで需要面からもう少し具体的にみてみますと、

●まず個人消費については、①特別減税打ち切りによる可処分所得の伸びの抑制、②消費税増税を控えた需要前倒しの反動減、③実際の消費税増税に伴う実質購買力の低下等が下押し要因となり、伸びは大幅に低下するものと予想されます。

(8年度見込み 2.1% → 9年度予測 1.4%)

●次に住宅投資については、震災復興需要や消費税増税前の需要の前倒し等の押し上げ効果が徐々に剥落していくとみられ着工水準はまもなくピークアウトする公算が高い。しかし、これまでの好調な動きも、基本的には低金利等を背景とした住宅取得能力の改善に支えられている面が強く、平成9年度の実質住宅投資は前年度の大幅増加から減少に転じるものの低金利持続に支えられ、小幅な減少に留まるものとみられます。

(8年度見込み13.3% → 9年度予測-3.8%)

●また民間設備投資に目を転じると、引き続き新製品開発、情報化など企業の戦略的投資は強化される方向にあります。最終需要の弱さに加え、バランスシート調整、産業の構造調整等の圧力は引き続き国内投資の抑制要因となります。従いまして設備投資は増勢を持続するものの、景気を牽引するほどの力強い回復の期待は出来ないと見込まれます。

(8年度見込み 5.8% → 9年度予測5.1%)

●さらに公共投資は、巨額の財政赤字・国債発行残高等から、大型予算が組みにくくなっており、9年度は景気の足を引っ張る方向に作用してゆくことが予想されます。

(8年度見込み-0.9% → 9年度予測 -4.0%)

●経常収支は一昨年夏の夏以降の円高修正の効果が徐々に顕れております。即ち、輸入の増勢は鈍化傾向にある一方、足元の輸出が強含みで推移しており、外需の減少傾向にもようやく歯止めがかかりつつあります。

●最後に円相場は7年夏の主要国通貨当局の協調行動以降、それまでの急激な円高が修正される動きとなり、8年以降も日本の対外収支の黒字減少や日米金利差等を背景に緩やかな円安傾向が続き、年末には1ドル115円台と、平成5年初以来の水準まで下落しました。ただ、過去の対外収支動向をみると、これまでの為替レートの調整効果が既に輸出入両面に顕れ始めており、黒字の減少テンポに鈍化がみられます。こうした動きは今後さらに鮮明化し日本の黒字減少には次第に歯止めがかかり、再び黒字が拡大する局面も十分に予想され、この過程で円レートは徐々に強含む可能性が強いと思われる。

以上、重要項目別に9年度を予測した結果を総括しますと、まずこれまでの成長の足かせとなっていた外需の減少に歯止めがかかるものの、内需は公共投資・住宅投資が減少し、加えて消費税増税、特別減税の打ち切り等から、個人消費の伸びは大幅に抑制されると見込まれ、また設備投資の増勢は引き続き緩やかなものに止まると見られます。この結果、9年度の実質GDP成長率は、8年度見込みの2.3%から1.3%に低下するものと予想されます。

このように、わが国経済が大きな構造調整の過程にあり低成長が長引くなか、組合の皆様におかれましては、真の競争力を確保すべく従来以上に積極的かつ長期的視野に立った経営戦略を早急に講じていくことが要求される年になるものと思われま

す。私ども商工中金は今後も中小企業金融のリーディングバンクといたしまして、組織金融の推進を通じ

て皆様方が未来に向かって積極的にチャレンジされる際の幅広いニーズにお応えし、最も信頼されるパートナーとして努力を続けてまいります。どうか本年もよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方のご繁栄とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

	GDP	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	経常収支	為替相場(平均)
8年度見込み	2.3%	2.1%	13.3%	5.8%	-0.9%	7.3兆円	110.0円/\$
9年度予測	1.3%	1.4%	-3.8%	5.1%	-4.0%	8.1兆円	107.6円/\$

# 初市風景

金沢問屋センター繊維同業会(山田治作会長)、吉例の初市は、1月7・8日行われた。

生憎の天候にもかかわらず、例年に比べ来客数は多く、幸先の良いスタートとなった。

ここ数年、催事の立ち上げが早くなっており、消費者ニーズの多様化で好みを絞り込むのが難しいようであるが、婦人アパレルに関しては、単品のコーディネートとなっており、ニューベーシックと呼ばれるシンプルな無地のもので、色は昨年からの茶系と黒に加え、この春にはキャメル・ブラウンが又、素材ではストレッチのニットが動いているようである。

